令和５年度　授業改善推進プラン（全体計画）

多摩市立諏訪中学校

教育目標

東京都教育委員会及び多摩市教育委員会の教育目標を受け、また本校の実態を踏まえて学校の目標を次のように設定。

校訓　未来を切り拓く諏訪中生　　・意欲　・共生　・健康

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

（1）　基礎基本の確実な定着により学力向上。
（2）　言語活動を伴う思考力・判断力・表現力の育成。
（3）　みらい会議での発表に向けたESDの充実。

諏訪中学校における「身に付けたい学力」のための具体的方策

○単元指導計画を元に授業のねらいを明示し、ICT機器を活用した振り返り活動を行い、知識・技能の定着を図る。
○生徒自身が課題を設定し、課題解決の過程や結果の発表を通して「思考力、判断力、表現力」を身に付けさせる。
○ICT機器のアプリを活用するなどの課題等の工夫をして、家庭学習の習慣の定着を図る。
○全学年において、数学の少人数習熟度別指導、英語の少人数指導を行い個に応じた指導を行う。
○全教員体制による夏季補充学習会を実施し、基礎学力を向上させる。
○ESDの体験的な活動を通して、実践的な活動をする事により、自立した人間として生きて行くための力を育成する。
○ユネスコスクールの理念のもとにESDの視点に立った教育活動を推進する。
○地域未来塾・放課後学習会を実施する。学生等の外部人材を活用する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	指導と評価	校内における研究や研修の工夫
・家庭学習に取り組ませるための授業と課題への工夫 ・少人数指導を活用し、基礎基本の定着を徹底する ・地域未来塾の推進（放課後） ・ICT 機器を活用した振り返り活動やアプリの活用によって ICT 機器の有効活用	・「学校評価」と「生徒による授業評価」の充実 ・週ごとの指導計画の記録の充実 ・適正な評価のための教員間の情報交流	・「不登校生徒に対する具体的な支援」についての研究と実践 ・ICT 機器を活用した授業実践の教員同士による情報交換

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
【漢字】学年別漢字配当表に示された漢字を書くことができる。 【語彙】学年に応じて、理解したり表現したりするために必要な語句の量を増す。	【C　読むこと】文章の構成や論理の展開、表現の仕方について深く考えることができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・定期テストでも小テストと同じ漢字を間違っている生徒が多い。ア ・段落と段落の関係を捉えることが困難な生徒が見られる。イ	・テスト前に漢字の練習プリントを繰り返し行ったり、小テストの直しの時間を行ったりすることを通して、正しく漢字を使う技能を身に付ける。ア ・説明的な文章では、接続する語句に注意して読むなど文章の見方を養う。イ	・11 月以降随時 ・11 月以降の説明的文章の授業	
第２学年	・小テストでは「努力を要する」生徒の割合は低い。しかし、定期考査等で小テスト複数回分の範囲から出題した際は、「努力を要する」生徒の割合が小テストよりも増える。ア ・本論で挙げられた具体例から、結論とのつながりを把握することを困難とする生徒が見られる。イ	・小テスト終了後の振り返りの時間を設ける。また、学年相当の漢字の学習が終了した後は、これまでの範囲の復習に充てる。ア ・説明的文章の授業では、小グループの話し合いにより主張とそれに至る流れを確認させる。その後、文章の構成をノートやワークシート等にまとめさせる。イ	・11 月以降随時 ・11 月以降随時	
第３学年	・物語や随筆等を書く際に、情景や心情を表現することに困難さ(語彙力の不足・漢字や語句の誤り)を抱える生徒が一定数いる。ア・イ	・創作の授業では、Web 上の国語辞典・類義語辞典等を活用させ、正しい漢字の把握・適切な表現の一助とする。また、制作の途中経過をタブレット端末で報告させ、適切な助言に努める。ア・イ	・11 月以降随時	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

【全学年】
- 生徒が書き込んだワークシート等を撮影し、ロイロノート上で共有し、その後の意見交換に役立てる。**【重点：協働】**
- 作文等の途中経過を撮影させ、ロイロノート上で提出させる。作品完成前に適切な指導を行い、改めて生徒に適切な表現を考えさせる。
【重点：個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

【全学年】
- 課題を提示した後、過去の生徒作品を参考としてロイロノートで提示することにより、学習の見通しをもたせる。
- 学習の最後にロイロノートを用いた振り返りアンケートを行い、生徒自身の学びと成長を実感させる。また、振り返りアンケートの集計結果は、教員の授業を改善する一助とする。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　社会

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
資料や地図などから様々な情報を読み取ったり、図表などにまとめたり、説明したりすることができる。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・資料や地図から必要な情報を読み取り、特色や課題を把握することを苦手とする生徒がいる。　ア ・定期考査や課題で、社会的事象についての説明や記述する設問の正答率が低い。　イ	・資料や地図から必要な情報を収集するために、資料を読み取るポイントを明確に示す。ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。イ	・12 月～２月の授業で適宜行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	
第２学年	・グラフや地図など地理的な資料から必要な情報を読み取り、特色や課題を把握することを苦手とする生徒がいる。　ア ・定期考査などで、社会的事象について説明する設問の正答率に課題があった。　イ	・グラフや地図などの資料から、着目するポイントを明確にするような学習課題を設定する。ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。定期考査の振り返り学習を行う。イ	・12 月～２月の授業で適宜行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	
第３学年	・複数の資料を活用して課題や特色を把握することを苦手とする生徒がいる。　ア ・定期考査で、社会的事象について説明する設問の正答率に課題があった。　イ	・グラフ・図表・統計資料などを用いて、特色や仕組みを把握する学習課題を設定する。ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。イ	・12 月～２月の授業で適宜行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
１年　学級内および小集団でタブレットを活用した意見交換を行う。 ２年　学級内および小集団でタブレットを活用した意見交換を行う。 ３年　学級内および小集団でタブレットを活用した資料収集や意見交換を行う。**【重点：協働】**	１年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。 ２年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。 ３年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**数学**

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
数量や図形などの基礎的概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	数学を活用し事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎クラスの生徒は、小学校の内容を含め基本的な計算が出来ない・時間がかかる生徒が多い。 ア ・文章の読み取りに課題があり、文章から得られる情報を正しく整理・表現できない。 イ	・基礎クラスの授業の中で、簡単な計算テスト（４択）を毎授業行い、今まで学んできた計算に触れる機会を多く設ける。 ア ・文章から得られる情報を他者と共有する（ＩＣＴ）時間を設けて、必要な情報は何か・どのように表現すればよいかを主体的に協力して取り組ませる。 イ	・４月～ ・10 月～	
第２学年	・基礎クラス生徒は、既習事項の定着ができていない分野が多く、単元ごとに細かい振り返りが必要。 ア ・文章の読解力が低く、条件をうまく整理して考察できない生徒が多い。 イ	・基礎クラスの生徒は、定期的に復習の時間を設けて、基本的な内容の復習や計算能力の向上を図る。 ア ・図形・文章題・証明問題では、ICT を利用して、立式の手順や条件等を整理して視覚的に理解させる。 イ	・４月～ ・９月～	
第３学年	・習熟度の差が大きく、習熟度で厳密にクラス分けを行うと、クラスの人数に大きな偏りが出る。基礎クラスの基本の定着が必要。 ア ・問題文の読み取りに課題がある。また、自身の考えを細かく記述し、表現することが苦手な生徒がどのクラスでも見られる。 イ	・基礎クラスでは定期的に各単元の復習の時間を設け、基本的な計算能力を向上させる。 ア ・ICT 等を用いて、生徒が自身の考えを伝える機会を定期的に設け、立式の手順や図形の性質を論理的に説明できるようにする。 イ	・４月～ ・10 月～	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について**
全学年共通　タブレット端末を活用した多様な意見や考えの共有 グループワークを通して教え合いを行い、ＩＣＴを活用して他の人の考えを共有する場を設ける。**【重点：協働】**	全学年共通　本時の要点の振り返り，該当部分のワークシートによる演習 授業後に授業で行った内容やポイントをまとめるワークシートの作成、授業開始時に今まで学んだ内容の復習小テストを行う。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
知的好奇心や探究心をもって，自然に親しみ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を「授業における具体的な手だて」に示すとおり育成することを目指す。	学年や発達の段階，指導内容に応じて，観察・実験の結果を整理し考察する学習活動，科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動，探究的な学習活動が充実するように改善する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	○興味・関心が高く主体的・意欲的に取り組める生徒が多い一方、小学校での実験の基本操作の経験が少なく、スムーズに実験が行えない。ア ○小学校段階での実験の経験が少なく、結果を考察したり説明したりすることが苦手である。イ	○生徒一人一人の実験の機会を増やすとともに、各自に一つ一つの手順を段階的に行わせるようにする。言葉だけでなくＩＣＴを活用して視覚的な理解を促してから取り組むようにする。ア ○結果の確認から考察までを数段階に分け、話し合い活動と解説を交互に行い、考察や説明ができるようにしていく。イ	１学期より継続中	
第２学年	○知的好奇心や探究心が乏しく、淡々と授業内容に取り組む生徒が多い。ア ○結果を考察したり説明したりすることが苦手である。イ	○興味・関心を高める話題提供や、授業プリントの作成を行う。ア ○話し合いの場面を多くし、協力して考察することによって視野を広げ、考察や説明の技能を高めさせる。イ	１学期より継続中	
第３学年	○興味をもって意欲的に学習に取り組むことができているが、もっている知識を互いに結び付けて考えることが苦手な生徒が多い。ア ○重点に挙げたそれぞれの学習活動が、概ね十分に取り組めている。イ	○過去に学習した内容を復習し、関連を明確にする。身近な事象との関連や他の単元や教科との結び付きを紹介する場面を取り入れ知識に幅をもたせる。ア ○より高い段階を目指し、授業プリントで個々に考察・探究する場面や、お互いに意見交換する場面を多くし、その内容を評価しフィードバックしていく。イ	１学期より継続中	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等ＩＣＴの効果的な活用について

・タブレット端末を活用し、班単位の話し合い活動の際、言葉で説明しにくいものを図で表現したり、資料を検索して示したりする。また、グループ内で情報共有や意見交換を行う。**【重点：協働】**

・一人一人が筆記用具のように自らの学習道具として有効に活用できるように、様々な使用方法（計算の確認、板書が見にくいときなど撮影して拡大、実験器具の使い方の都度確認、温度や電流・電圧などを読む際に撮影して細かく読み取るなど）で使用させる。**【重点：個別】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

授業前半で本時の目標を明確にするとともに今後の流れも伝えておく。授業終わりにも時事の内容と今後の流れの再確認を行う。「トライ」「リトライ」（単元の導入と単元末で同じ問いについて考え、自己の成長を実感させる）に取り組む、未知の事象について考えるなどに、班単位で、自分で考え、自分の考えを伝え、話し合って意見をまとめるなど、様々な「主体的・対話的で深い学び」の活動に取り組ませる。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名

音　楽

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
【表現】歌唱表現や器楽演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら演奏表現を創意工夫すること。	【鑑賞】鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・「音楽を聴く」自体を好きな生徒が多いが、基本的な記号の読み方などを小学校の時に習得できていない生徒がいる。ア ・「魔王」など、特徴的な曲を聴くことはできるが、それを文章化し、説明することを苦手とする生徒がいる。イ	・班やパートでの班活動や少人数での話し合い活動を通し、お互いに学び合い、自分の良さに気付かせる。ア ・曲の特徴を捉え、それを聴き、登場人物がどのような様子だったのかを考え、発表する。イ	・２学期(９月以降) ・７月以降	
第２学年	・基本的な音楽記号などの習得はできているが、それを効果的に用いて(演奏すること)は苦手な生徒がいる。ア ・鑑賞曲を通して、様々な楽器があることは学んだが、どんな特徴があり、どのような場面で使用するのかは理解できていない。イ	・「楽譜の中のリズム」を早く見付けること。それによって、どう演奏し、表現をすれば良いのか考えさせ、検証させる。ア ・オーケストラの曲を聴き、どんな楽器が演奏しているのか、その楽器によってどんな効果があるのかを考えさせ、意見交換させる。イ	・年間を通して行う ・７月以降	
第３学年	・曲を聴いて想像したものをどう言葉にすればよいか、悩む生徒が多い。ア ・鑑賞曲を通し、その曲の雰囲気を感じ取り、言葉にすることが苦手な生徒がいる。イ	・自分のパートの音や歌詞を通してのイメージを毎回の練習の中で意見交換をさせ、気づかせる。ア ・曲を聴き、そのイメージを発表させる。イ	・年間を通して行う ・９月以降	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・各学年、リズム創作や自分のお気に入りの曲を ICT 機器で共有し、発表し合う。
・パート練習の中で音源を端末に入れ、お互いに学び合い、話し合い活動を通して共通理解をする。【説明５分→パート練習３５分→話し合い 10 分(次回へ向けての課題)】**【重点：協働】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年：発表活動を通して、お互いの良さに気付き、音楽に対する理解を深める。
2年：楽譜を見て、また話し合い活動を通して、曲理解、パート練習や全体練習で確認した部分を楽譜に「書きこむ」ことを通して作詞・作曲者の思いを考えさせる。
3年：パート練習を通して作詞・作曲者の意図を考え、発表し、お互いを認め合い主体的に考えさせる。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**美術**

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに,表現の方法を創意工夫し,造形的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ,表現の意図と工夫,美術の働きなどについて考え,主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり,美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	やる気は十分あるが,多くの生徒に基本的な技能を習得させる必要がある。ア 鑑賞では,「いいな」と感じることができる様子だが,「どんなところが」「どんな様子で」といった部分が弱い様子。イ	個別指導を増やすことや班の形態で制作することで,教師からの具体的な指導や生徒同士の教え会う活動を取り入れ、技能を視覚的に捉えられるようにする。ア 自ら見付けた「いいな」を ICT で視覚的に提示し,次のステップで対話から言葉を引き出していく。イ	・各単元 ・各単元	
第２学年	基礎技能の理解はしているようだが,実践と応用が難しい様子。ア 基礎的な鑑賞力ついてきたが,それを的確な言語表現に結びつけるのが難しい様子。イ	個別指導時に助言のみではなく,制作方法をいくつか実践し,自分に合ったものを選ばせる。ア 班活動による対話の時間を増やす。また,発言時でのより細かな問答を行う。イ	・各単元 ・各単元	
第３学年	制作時の表現方法への模索が見られる一方で,実践的な技術力が少々足りない様子。ア 発想段階での完成を予想しての構想を練ることが足りない様子が若干みられる。イ	個別指導時に個々の技量にあった方法を提示し,彼らの目指す制作に近付けさせる。ア 参考になるような作品を ICT 等使用することでより視覚的に見せるようにする。イ	・各単元 ・各単元	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・鑑賞では,作品を細部まで見ることや意見の共有などに活用。**【重点：協働】**
・アイディアスケッチを行うときは,個々の発想のヒントにつながるようインターネットを活用。**【重点：個別】**
・教科書の QR コードや手元を写した動画を活用し,技能面の補足を行う。
【重点：個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

・個人の振り返りシートの活用。単元ごとに単元全体の目標や全体の見通し,また毎時間の予定と次へつなげる振り返りを確認。
・単元プリント配布と黒板に学期のおおよその予定提示。単元プリントは,単元の目的や制作過程,気を付けたいことを提示し,各々の時間配分で制作できるようにする。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**保健体育**

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
体力を維持・向上するための方法を知識として理解し、それを実践することで技能・体力を養う。	それぞれの能力・技能に応じた行動を取ることができる思考力・判断力を身に付け、互いに高め合える力を伸ばす。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	コロナ禍における持久力の低下や筋力低下が目立つ。 ア コロナ禍により、集団での活動経験が乏しいためか個別に頑張ることはできるが、相互に高め合う経験を積ませていく必要がある。イ	毎回のランニングや補強運動を継続し、体力の回復・向上を図る。また、家庭でも継続できる運動の紹介やその効果をできる限り提示していく。 ア 小グループでの活動を増やし、誰にでも分かる上達のポイントを教師側が示すことで、互いにアドバイスしあえるよう工夫する。 イ	年間を通じて、実践し続ける　アイ	
第２学年	コロナ禍における持久力の低下や筋力低下が目立つ。 ア 運動に対して消極的な生徒が多いため、得意な生徒が積極的に関わろうとしても、前向きに取り組めない生徒が複数いるため、高めあうことが難しい。イ	毎回のランニングや補強運動を継続し、体力の回復・向上を図る。また、家庭でも継続できる運動の紹介やその効果をできる限り提示していく。 ア できるだけ様々な人と関わるペア活動やグループ活動を行う中で、仲間のアドバイスを取り入れることで、課題を克服できる経験を積ませる。イ	年間を通じて、実践し続ける　アイ	
第３学年	コロナ禍における持久力の低下や筋力低下が目立つ。 ア 運動が得意な生徒が比較的多いが、互いに高め合う力があまり改善できておらず、運動が苦手な生徒が得意な生徒の力を借りて、技能を向上させることができない。イ	毎回のランニングや補強運動を継続し、体力の回復・向上を図る。また、家庭でも継続できる運動の紹介やその効果をできる限り提示していく。 ア 技能が苦手な生徒でも、相手にアドバイスできるように分かりやすいポイントを提示し、双方でアドバイスし合えるようにする。イ	年間を通じて、実践し続ける　アイ	補強運動等を毎回欠かさず行い、体力・筋力の向上には一定の効果が見られた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について ・タブレット端末を種目に応じて自分の動きの映像の撮影や、手本となる動きの映像の観察など有効活用し、「自己の課題に気付き、その改善にむけて努力する」「得意な生徒が苦手な生徒へのアドバイスを実践する」力を身に付ける一助にする。 **【重点：協働・個別】**	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** ・本時の目標に対して、どのような成果や課題があったかを振り返る時間を設ける。また種目によっては、振り返りカードを活用するなどして、次回の授業に生かせるようにする。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　技術分野

技術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
社会や環境に関わる技術について、基礎的な知識と技能を習得する。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	生活に関わる技術について、聞いたり、使ったりする経験の差により、生活に関わる技術について知識及び技能を正確に習得していない面が見受けられる。ア よりよい生活を送るため、現状の問題を見いだす力・工夫する力に課題がある。イ	繰り返し基礎的な知識を学習することで、習得に結び付けていく。技能に関しては、道具の使い方に時間をかけて、習得できるようにする。ア 作業工程の中で、生活に関わる学習課題を設定し、生徒に考えさせる機会を増やす。また、作業効率を上げられる工夫を考えさせる。イ	９月～３月 ６月～８月、３月	
第２学年	基礎的な知識及び技能は身に付いてきているが個々の差が見受けられる。ア 生活体験の違いから問題発見に差が見受けられ、解決方法を見いだすのに時間がかかる。イ	机間指導の中で、個々の技能の課題を伝えて練習をさせて習得できるようにする。ア 授業の中で問題の提示や課題を出し、生徒に考えさせる機会を増やす。イ	６月～３月 ４月～３月	
第３学年	基礎的な知識、技能は身に付いているが、発展的な内容の理解や技能に差がある。ア 問題が理解できると解決に向けて取り組むことができるが、問題発見や解決のための工夫に時間がかかる。イ	授業の中で、基礎的な内容を再確認することで、発展的な内容に結び付けていく。また、ＩＣＴを活用して振り返りができるようにする。ア 授業の中で様々な場面を想定し、学習課題を設定することで生徒に考えさせる機会を増やす。イ	４月～２月 ４月～２月	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　学習内容の振り返りや作品の発表活動で活用する。**【重点：個別】**
２年　情報の基本操作の定着・レポートの制作、発表活動で活用する。**【重点：個別】**
３年　学習内容の振り返りやプログラミングの制作、発表活動で活用する。
【重点：個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　製作説明書で、作業の進捗状況を確認する。
２年　作業計画表で、作業の進捗状況を確認する。
３年　作業計画表で、作業の進捗状況を確認する。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**家庭分野**

家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力など
生活や技術に関する知識を高め、技能の習熟・定着を図る。	生活や社会の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決策の検討、実践、評価、改善といった活動を通し、課題を解決する力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	家庭内での生活体験が少ない生徒が多い。ア 快適な生活を送るために、家庭と社会でどのような仕事がなされているかを知らない生徒が多い。イ	調理、住居の実習を行い、生活体験の機会を作る。 実際の食品パッケージなどを使い、実生活の中でどのように活用されているかを理解する。ア 視聴覚教材等を使い、快適に生活するために、住居に取り入れられている工夫などを理解する。イ	1～3 月 9～12 月	
第２学年	例年に比べ基礎縫いが身に付いている生徒が多く見受けられる。ア 様々な情報から得た知識が生活と結び付いていない生徒が多い。イ	生徒の進度が早いので、ミシンを使用する作業が重なった時は模様作りの作業をするなど、時間を有効に使えるようにする。ア 消費者問題や環境問題を調べ、今自分たちが行うべき行動を話し合い発表する。イ	9～12 月 1～3 月	
第３学年	幼児との触れ合い体験が乏しく、幼児の心身の特徴が理解できていない。ア 自分と、家族・家庭と地域のつながりについて関心をもっている生徒が少ない。イ	視聴覚教材を使い、幼児の様子を理解する。 幼児向け紙芝居制作で幼児の理解をできるようにする。ア 視聴覚教材等を使い、地域における家庭の役割を理解していく。イ	9～12 月 1～3 月	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１ 年　食品パッケージの読み取りや献立作成においてタブレット端末で栄養価等を調べる。**【重点：個別】**
２ 年　被服製作において、タブレット端末で模様について調べたり、縫い方を動画視聴によって確認する。**【重点：個別】**
３ 年　幼児向け紙芝居の製作において、タブレット端末でデザインを調べる。**【重点：個別・協働】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１ 年　授業の振り返りと、授業内容と実生活との結び付きを伝える。
２ 年　振り返りシートで、自分の作業の進捗状況を確認する。
３ 年　振り返りシートで、自分の作業の進捗状況を確認する。

令和５年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**英語**

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
・日常的なコミュニケーションの場において必要な語彙・表現・言語の動きなどを理解し、活用する力を身に付けている。	・日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えを理解し、お互いに伝え合うことができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・単語テストの正答率は高いが、文で表現することを苦手とする生徒が多い。ア ・日常的な話題に対して音声で自分の考えを相手に伝えることはできるが、文字にすることに困難さを感じる生徒がいる。イ	・単語の空欄を埋める小テストを行い、家庭学習では文で覚え書く機会を増やす。ア ・授業の中で、口頭で話した表現について、書いて練習するように指導する。また、本文の写しを毎回の宿題にする。イ	・単元毎小テストを実施し、定期考査で成果を確認する。 ・会話の帯活動を取り入れ、復習していく。	
第２学年	・自分の意見を表現するとき、文字によって表現することが苦手な生徒が多かった。ア ・日常的な話題に対して音声で自分の考えを相手に伝えることはできるが、文字にすることに困難さを感じる生徒がいる。イ	・自分の意見を発表する場を授業中に設け、その中で生徒が間違えた表現については教師が言い直すなどして正しい表現に気付かせる。ア ・授業中口頭で使った表現を文字にして書く指導をする。単元ごとに本文の写しを宿題にする。イ	・授業で練習したことを定期テストに出題する。また、自分が書いた英文を提出させ、教員が確認する。	
第３学年	・会話練習やデスカッションでお互いの考えを伝えることに積極的に取り組んでいるが、必要な語彙や文法が不十分である。ア ・長文を読み、内容を正確に理解することに苦手意識をもっている生徒がいる。イ	・対話練習等の場面に応じて必要な表現を指導するともに、学習の区切りごとに小テストを行い語彙力や文法の力を身に付けさせる。ア ・大意をつかむ速読と、精読を織り交ぜて様々な長文を読む機会を作り指導する。イ	・小テストの他、会話練習で教え合うなど復習の場を設定する。 ・多くの長文問題に取り組ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について ・自分の音読を録音し聞きなおすことで自ら学ぶことができるようにする。**【重点：個別】** ・「話すこと（発表）」の力を測るパフォーマンステストで、原稿や視覚的補助教材作成の際に活用させ、よりわかりやすい発表ができよう支援する。**【重点：個別・協働】**	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** ・単元ごとに言語活動の目標となる”Goal”を設け、発表活動やパフォーマンステスト等を行うことで、その単元での学びを振り返ることができるようにする。